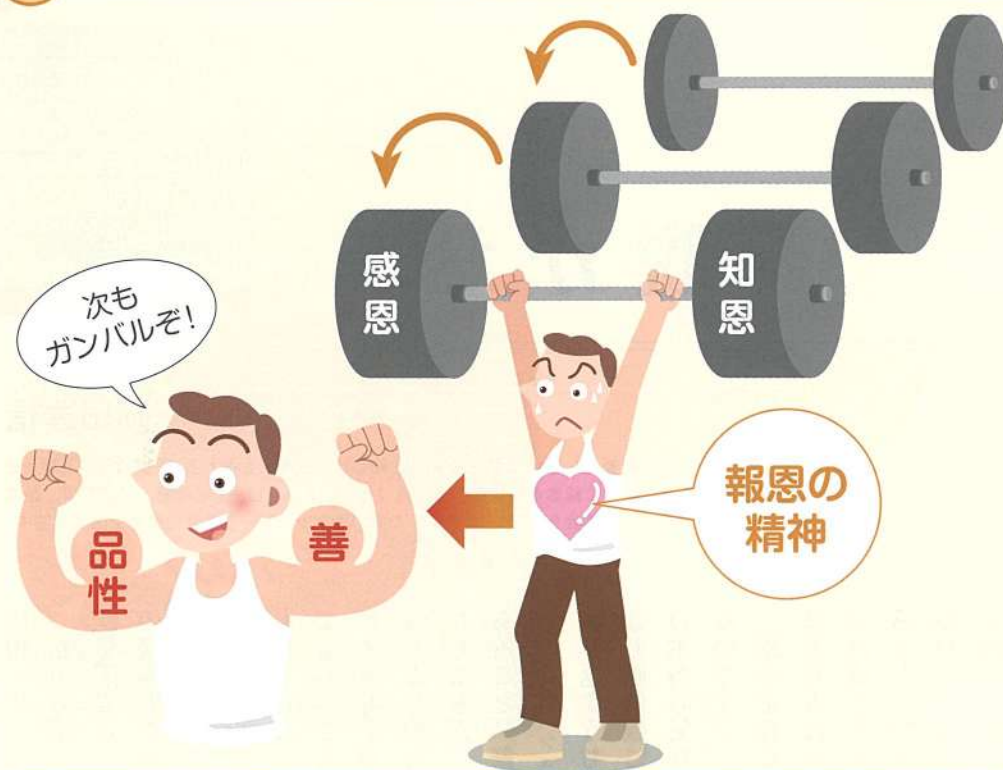




次第に大きくなる知恩と感恩に対する報恩の精神には、意志や行動力も重要です。
また、報恩の精神は私たち自身の力にもなります。

来自らが親となり、出産を経験したり、家族を養う立場になれば、その辛さや苦勞を実際に感じることで、それまで「知っている」と思い込んでいた親の思いをより深く理解することになります。「子を持つって知る親の恩」と言われる所以です。このような「知恩」と「感恩」の相互の関わりは、日常の中で、頻繁に、継続的に経験されます。

家庭や学校、職場、近隣社会など、私たちはさまざまな場面で恩人に出会います。恩人への感謝の気持ちは、その後の言動に大きく影響し、それが「恩に報いる（報恩）」の基本となります。

報恩は、直接恩人に報いるものに限られません。恩人の心を受け継ぎ、社会や後世を益することも、立派な報恩です。そして、十分に恩に報いていくためには、意志や知恵、行動力も重要になってきます。

モラロジーでは、肉親や日常生活の恩人に加えて、国家や人類全体を守り、善導した存在を大事にします。そのような存在への感謝と報恩の精神を、種々の道徳実践の基礎に据えることにより、自らの品性や善の力を培っていきけるのです。

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第八章の二の「伝統に対する報恩の方法」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

「知る」と「感じる」、そして「報いる」

—— 恩を深める相互の関わり

柏生涯学習センター研修企画担当 望月文明

五〇〇キロ離れた場所に時速一〇〇キロで車を運転すれば、何時間後に到着するのかは、小学生でも知っています。しかし、その距離を運転するとどのように感じるのかは、大人になって実際に経験しなければわかりません。そして、運転すれば、疲労感、車の性能、天候や渋滞などのさまざまな要因が時速や走行時間に影響することを知ります。運転の実感が知識を改めるのです。

逆に知ることによって感じ方が変化する場合もあります。ある異性から好意を寄せられていると知った後に、自分もその人に対して好意を持つこともあるでしょう。

これらの例は単純ですが、実際に「知ること」と「感じる」とは密接に関わりあっていて、相互に影響しています。これは今回のテーマ、「恩を知る（知恩）」と「恩を感じる（感恩）」でも同様です。

例えば、私たちは誰もが母親の胎内から生まれ、親の養育と保護の下で暮らしていることを幼少期から知っています。やがて、父親が風邪を引いても出勤していることや、母親が早朝から荒れた手でお弁当を作っていることに気がつけば、感謝の念は一層深まります。さらに、将